

自分で鳴らせる楽器を増やそう！

教科・場面

音楽

授業・実践のねらい

なまえのうた→指導者から呼名されると返事し、楽器を鳴らす。
自分で鳴らせる楽器を増やす。
他児と同じ楽器を鳴らすことができる。

対象の児童・生徒

中学部 A 班

車いす・座位保持椅子 8名

立位・歩行ができる 1名

中学部 A 班は様々な実態がある中、みんなが同じ楽器に取り組む機会を設けた。

教材・教具

- ・ゴム付きのタンブリン
- ・ゴム付きのシンバル
- ・ホースにつけた鈴
- ・持ったり腕につけたりできるチャフチャス



工夫したところ

身近にある取り組みやすい楽器を用いた。
生徒にあった楽器を選んだ。

授業展開・教材の使い方・実践の内容

①音楽に合わせて身体を動かす取り組みをすることで、楽器を鳴らす際に体を動かしやすいようにする。

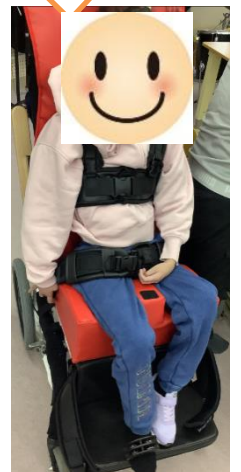
- ・学期ごとに音源を変え、メリハリをつけた。
- ・鳴らす楽器ごとに音源を変え、体を動かす部位を意識できるようにした。

②「なまえのうた」

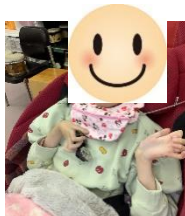
- ・1年間にさまざまな楽器に取り組めるようにした。
- ・一人ずつ活躍できる場を設けた。
- ・生徒の得意な動きを活かして鳴らせるような楽器を用意し取り組んだ。

足を振って鳴らしたよ♡

腕を後方へ振って鳴らしたよ！



指で弾いて鳴らしたよ！



腕を上下に動かして鳴らしたよ♪



授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・生徒にあった楽器を使用することでポテンシャルも上がって鳴らせることが増える。
- ・ゴムでつけられるので調整しやすく、生徒も自分の動きで鳴らせることが多い。
- ・繰り返して取り組むことで自分から進んで鳴らせるようになってきた。

しっかり握れて鳴らしやすかった☆

